

— みんなの力でおいしいマグロをいつまでも —

発行・一般社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構

目次

1・2面…巻頭インタビュー
 3面… I C C A T 労働基準作業部会の結果
 4面…第31豊國丸が初出港、急拡大する日本のノンアル文化、「まぐろ!?ぬりえ」完成

人も育てる「カイゼン」に

(一社)宮城県北部鰹鮪漁業組合 勝倉宏明組合長

マグロはえ縄漁業に、無駄を徹底的に省くトヨタ自動車の生産管理手法「カイゼン」を導入する「まぐろはえ縄漁業生産性向上カイゼン検討会」が、宮城県気仙沼市で2017年6月に発足しました。これまでに検討を重ね作成した機材の船への導入も始まっています。ただ、効率化が追求される一方で若手船員の離職率は高く、船員不足を補えずにいます。同検討会は今年度から定着率向上も活動の大きな柱に据えています。同検討会の会長も務める(一社)宮城県北部鰹鮪漁業組合の勝倉宏明組合長を取材しました。

(インタビュー・黒岩裕樹)



— 気仙沼のマグロはえ縄漁業に、トヨタ自動車の協力が得られたきっかけを教えてください

勝倉 2011年3月に発生した東日本大震災からの復興を図るため、トヨタ自動車東日本(株)は被災地企業と「カイゼン」を共有する異業種相互研鑽活動を進めており、気仙沼の水産加工場なども参加していました。その接点から菅原茂気仙沼市長が、「市の基幹産業であるマグロはえ縄漁業にも力を貸してほしい」と依頼をし

たことが始まりです。

ただ、トヨタ自動車東日本の力を借りて省力化を実現しようにも、漁船という陸とは全く異なる環境で何かから手を付けてよいのか。手探り状態のスタートでした。そこで、漁労長や船員らを対象にした「困りごとアンケート」を実施し、現場の課題抽出から始めました。

— どういった要望があったのですか

勝倉 ひとつが超低温冷凍庫内での作業です。マイナス60℃の環境下で100kg超もの漁獲物の上げ下ろしは、体への負担が大きいといった作業環境に関する困りごとが最も多く、新人船員の定着率低下にもつながっていました。

中でも「グレーズ処理」と呼ばれる作業の改善は急務でし

た。急速凍結したマグロを、専用の水槽(グレーズタンク)に張った水にくぐらせ、魚体の表面を氷の膜で覆うことで、保管中の乾燥を防ぎます。マグロの品質を保つためには欠かせませんが、船員の身体的負担が大きい作業でした。

— 解決策は見つかったのでしょうか

勝倉 検討会ではグレーズタンクからマグロを「持ち上げる」作業を、斜め上へ「滑らせる」という発想に転換しました。タンクに取り付けるスロープは、最も少ない力で滑り上げられる角度を検証し、「周囲に水をまき散らさない」「魚を傷つけない」「既存船にも導入可能」「修理しやすい」(2面につづく)



関係者がアイデアを持ち寄り、漁労作業の改善策などを検討している

(1面からつづく)

「壊れても従来の作業法で継続できる」など、現場の声も反映。試行錯誤を繰り返して、材質や形状を進化させて「気仙沼スロープ」(写真参照)を完成しました。

滑らせることで、100kg近い大型魚を1人で扱えるように改善されています。魚体には傷が付きにくく、品質改善の効果もあったため、多くの船に導入されるようになりました。

——トヨタ自動車が基本姿勢としている「現地現物」の考えが反映されたのですね

勝倉 この「カイゼン」の作業を通じて、いかに船員が船に合わせ、慣れることに注力していたかが浮き彫りになりました。一例を挙げると、グレーズタンクの大きさは各船で異なります。「なぜそのサイズなのか」と検証したこともなく、船員は造船所が作ったものを、そのまま使っていたのです。

各船の仕様を確認して最適な大きさを検証、新調する際の推奨サイズを初めて割り出しましたが、この点は驚きでした。

——標準型があるものだと思っていました

勝倉 船の構造から「そうせざるを得ない」と勝手に判断していたのです。こうした箇所はほかにもあります。船内の段差はその代表です。浸水防止など「安全面から法律上の決まりがある」と思い込んでいた壁や段差の中には、問題なく取り除ける場所もありました。

とはいえ、既存船の壁や段差を完全に取り外すことが難しい場合もあります。

漁獲したマグロを凍結準備室から凍結室へ運び入れる作業動線には、魚を持った状態で「よいしょ」と乗り越えなければならないいくつかの段差がありました。検討会を通じ、取

り外し可能な「横スライダー」を設けることで、マグロを滑らせて凍結室へ運ぶことを可能にしました。

——「目から鱗」だったのですね

勝倉 トヨタ自動車東日本の方々とは、同じ結果が得られる作業でも「どうしたら簡単で楽か」を常に突き詰めて考えていました。確かに段差はない方が作業をしやすい。外から見た彼らが、「なぜだろう」という問いを投げしてくれたことで、われわれ船主や現役・OB船員、関係団体および企業が「確かに・なるほど」と納得し、解決策を話し合うことができました。

もちろん、現時点では実現に達しなかったアイデアも数多くあります。生産の現場が沖にあり、カイゼンで重要な現地現物(実際に現場に行き、現物を見て問題解決にあたること)が困難で、現場感覚を理解するのが難しいためでした。それでも、地元の冷凍倉庫や沿岸小型船なども活用してもらいながら改善案を試行し、現在も検討を重ねています。

「沖で働く乗組員のために何ができるのか」を突き詰めた5年間だったと言えます。

——省力化などの改善策は、若手船員の確保にも貢献しそうですね

勝倉 ところが、高船員らの退職に対して、新人が思うように増えません。定着率が高くないことが理由です。

宮城県北部船主協会が船員希望者との接点をつくるブログを開設し、日本かつお・まぐろ漁協が船員募集PR動画を作成してくれたことで、気仙沼では新人採用者数が増えています。それでも、20～30歳代の方が5年後も継続して船に乗り続けるケースは5割に満たず、強い危機感を抱いています。

——船員不足で出航が遅れ、出漁を見合わすという話を聞く機会も増えてきました

勝倉 どうしても「いかに採用数を増やすか」「何人が資格をとったか」が注視されがちですが、そこがゴールではありません。彼らには家族をもち、気仙沼に家を建て、後進を指導するまで働いて欲しい。継続して活躍してもらうために何ができるかを、考えるべきではないでしょうか。

検討会は今年度からトヨタ自動車



グレーズタンクから「気仙沼スロープ」を伝ってマグロを滑り上げる

東日本の支援を離れ、独自に改善活動を進めていきます。このタイミングで当初の目的に立ち返り、自動化を含めた省力化に加え、「定着率向上」も大きな柱として考えることにしました。

——この検討会の中で定着率向上に取り組む理由は

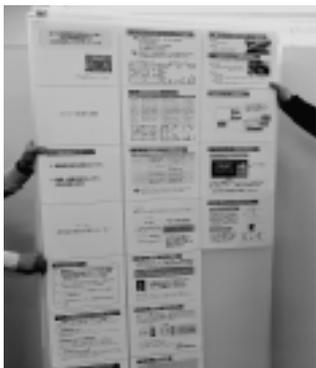
勝倉 これまでは個々の会社が、福利厚生や収入、休暇、航海日程の変更など、作業環境以外も含めて、どれが定着率向上のために効果があるかを模索していました。これにより実際に若手船員が海技士資格を取得し、幹部候補へ昇格し定着していますが、今のペースでは足りません。

また、新人船員の定着は、漁業界だけの問題でもありません。気仙沼には造船から鉄工、電装、無線、塗装、補給、仕込みなど、漁業に関連する産業がすべて揃っています。当地を拠点とするマグロ漁業の強みの1つで、車の両輪のような関係にあります。この関連産業が今後も安定して収入を得られ、存続してもらうためにも、1社が新人船員の定着率向上に成功するだけでは、意味がないと思っています。

——何をすべきでしょうか

勝倉 遠洋・近海のマグロはえ縄漁業が垣根を越え、一致団結して気仙沼のマグロはえ縄漁業全体のイメージアップを図らなければ、ここに人が集まらなくなります。私は近海船の専門ではありませんが、省力化の検討にも参加しつつ、「遠洋はこうして定着率を上げているよ」などと提案できるよう、協力して頑張っていきたいと思います。

この検討会が立ち上がるまで、気仙沼には同業他社が集まり、共通の課題について話し合う機会がありませんでした。こうした場もトヨタ自動車東日本に提供してもらったと、改めて感謝しています。



現場の課題を抽出した「困りごとアンケート」

ICCAT労働基準作業部会の結果について

近年、漁船における労働問題が脚光を浴びており、事件の報道や報告書の出版が多く行われている。例えば、グリーンピースは一昨年从去年にかけて、漁業における強制労働や不適切な雇用に関する報告書を2本出しており、強制労働に関するアカデミックな論文投稿も見られるようになった。最近では、人権侵害が常態化するOPRTメンバーの漁船により漁獲されたマグロなどが日本市場へ流入している可能性が高いとする環境団体の主張が報道され、日本国内でも関心を集めたところ。

また強制労働問題は頻繁にIUUと関連づけられており、IUU問題に取り組むために2000年に設立されたFAOとIMOの合同作業部会は、2019年になってILOが加わり、漁業における労働問題も議論することとなった。また、2021年5月に米国はWTO漁業補助金交渉に提案を提出したが、その中でIUU漁業に対する補助金の排除は強制労働問題の解決に寄与すると主張している。

RFMOの中ではこれまでWCPFCが労働問題を議論してきたが、今年からはICCATもこれに取り組むこととなり、3月中旬に労働基準に関する作業部会が開催されたのでその結果を簡単に報告する。

本件作業部会は、昨年11月のICCAT年次会合において米国が設立を提案し、合意されたもので、第1回会合が3月14及び15日にオンラインで開催され、約80名が参加した。ICCATの締約国からは、ベリーズ、カナダ、中国、エルサルバドル、EU、ガボン、ガーナ、ガンビア、ホンジュラス、日本、韓国、メキシコ、ノルウェー、セネガル、セントビンセント、英国、米国、ウルグアイの18か国が参加し、協力的非加盟国及び協力的漁業主体からボリビア及び台湾が参加し、OPRTを含む4つの団体がオブザーバーとして参加した。議長には米国のアレクサ・コールが選出された。

会議はまずILOの2名の専門家によるプレゼンテーションから始まり、その中で、強制労働とIUU漁業の関連性が強いことを述べつつ、強制労働の11の指標やILO条約第188号（漁業労働条約）について説明があった。また、ILO専門家は、国レ

ベル及び地域レベルで検討すべき事項を勧告し、これについて議論が行われた結果、今後の作業計画として以下の点が合意された。

1. 情報交換及びICCAT・CPC(締約国、協力的非加盟国及び協力的漁業主体)間の協力

(1) 情報交換サイトの設立
(ア)ICCAT事務局は、作業部会議長と相談して、ICCATホームページ内に、特に過重労働や漁業管理に影響を与える安全問題に関する自主的な情報を蓄積するサイトを設ける。当該サイトは、①関連する国際条約、②検査官、オブザーバー、関係者等が使用するために開発され公開されているガイド及び訓練教材、③国内法制の関連する要素に関する報告（実施に責任を有する当局、関連法制がどのように実施されているか（刑事上や民事上等）といった国内実施に関する情報）であって、合意された様式でCPCにより提出されたもの、を含む。

(イ)情報交換及び協力を推進するため、CPCは、可能な限り早急かつ自主的に、適用される情報秘匿義務に従って、ICCAT事務局に対して、パスワードで保護されたサイトへ掲載するために、モニター、管理及び調査計画を通じて発見されたものを含むICCAT漁業における労働条件に関する問題についての関連情報を提供すべきである。

(2)CPCは、2022年6月に予定されている第15回監視取締統合作業部会の前までに、当該情報を提供し、情報サイトを充実させるために特別な努力を払うべきである。

2. ILOとの調査、訓練及び能力開発

(1)ILOとの将来可能な協力を知らせるために、作業部会は、ICCAT事務局がILOに対してICCAT漁業における共同調査・訓練に関する概念を示した短い書面を作成するよう求めることを要請する。

(2)作業部会は、共同調査・訓練に関する概念に関するILOの評価をレビューし、CPCが個別に及び共同でどのような行動をとることが可能かを検討する（これには、ICCAT漁業で特定された欠落を埋めて労働条件を改善するために、適当な場合には他の国際機関との協力による行動を含む）。

(3)ICCAT事務局はILOと協力し、

助けとなるのであればICCATとILOの間の了解覚書を策定する。

3. ILOの強制労働指標漁業版のレビュー

(1)作業部会は、ILOと協力し、ILOの一般的強制労働指標をレビューし、これを漁業セクターに合わせて修正する件に関してILO関係者に指針を与えるため、これに関するCPCのコメントを提供する。

(2)このレビューは、ICCATの知識・知見を強制労働指標の改定プロセスに役立て、指標をICCAT漁業にとって最適なものにするために行われる。

4. 暫定作業部会の継続

(1)作業部会は、委員会に対して、2023年も作業を継続しこの問題に取り組むべきことを勧告する。作業部会は、透明性を確保し適当な場合には追加的なコメントと議論を要請するため、2022年6月の監視取締統合作業部会に最初の報告を行う。

5. 将来の計画

(1)作業部会は、入手可能な関連情報を踏まえつつ、労働基準に関する最適な慣行を特定することを検討すべきである。

(2)作業部会は、将来的に必要ながあれば、本件問題に関して追加的な努力を行うことを検討することが可能である。

【前号記事の一部訂正】

ニュースレターNo.112（2022年2月）3面「2022年のRFMO会合の見通し」の「5. CCSBT」において、「現行のTACと割当は2023年まで有効で、管理手続きに基づき計算されるTACの承認と新たな割当は2023年の年次会合で議論されることから、10月10～13日に開催される年次会合では新たなTACと割当に関する議論は殆どないと思われる。」と記述しましたが、その後ご指摘があり再度確認したところ、「現行のTACは2023年まで有効であるが、2024年以降のTACは本年管理手続きにより計算され勧告されることから、2024年以降のTAC及び割当は本年の年次会合で議論される見込み。」と判明しましたので、お詫びして訂正いたします。

第31豊國丸が初出港 遠洋マグロ漁業へ新規参入 豊国丸漁業生産組合

焼津の豊国丸漁業生産組合(橋ヶ谷長生組合長)の遠洋マグロはえ縄船・第31豊國丸(441ト)、岡崎和廣漁労長、乗組員28人)が3月2日、静岡・焼津港から大勢の見送りを受けて豪州沖合の漁場に向け初出港した。

同組合は遠洋カツオ一本釣り漁業のみを営んできた。新規に遠洋マグロ漁業に乗り出すのは最近では例がなく、新たなチャレンジに注目が集まっている。

同船は3月半ばすぎに豪州東岸沖

合漁場に到着してメバチ、キハダなどの操業を行ったあと、ミナミマグロ漁期に合わせてタスマン沖、シドニー沖で同操業を展開。その後、西経漁場に移動してメバチ、キハダなどの操業を行い、来年1~2月に帰港する予定。

新漁業法のもと、既存の遠洋マグロ船(かつお・まぐろ漁業許可とミナミマグロ漁獲割当割合の移転付き)を購入。造船所で船を整備する一方、乗組員を確保するなど出港に向けて準備を進めてきた。

同漁業生産組合はこれまで遠洋カツオ竿釣り船・第8豊國丸(483ト)を所有して、南方海域や東沖などでカ

ツオ、ビンナガ操業を展開。これに遠洋マグロ船によるマグロ漁業が加わった。橋ヶ谷成央理事は「遠洋カツオ竿釣り漁業と遠洋マグロ漁業の経営をバランスよくやっていきたい」と抱負を語った。



大勢の見送りを受けて焼津港から初出港する遠洋マグロはえ縄船・第31豊國丸

寿司屋は入りにくい？

急拡大する日本のノンアル文化

魚好き=のんべえからの脱却

新型コロナウイルスの感染抑制で酒類提供禁止がたびたび要請されるようになり2年がたった。困った飲食店は、酒代わりにノンアルコール飲料を増やすなど工夫をしてきたが、水産界は「魚好きは”のんべえ”ばかりだから、酒が出せなければ魚は売れない、仕方ない」と諦めてこなかっただろうか。素面(しらふ)を楽しむ(ノンアル)文化の普及を目指すプロジェクト「Shirafer(シラファー)」を、2020年から提唱している(株4(よん)の小石川泰弘社長に話を聞いた。

以前のノンアルコール飲料は「あくまでアルコール飲料風味にし、味を模倣した飲み物だった」と小石川社長。それが昨年あたりから「アルコール飲料からアルコールだけを抜く『脱アルコール製法』が日本でも一

般化した」と話す。どこか味気なかった飲み物が「のんべえ」でも楽しめる飲み物へ急速に進化した。

世界的には、健康志向の広がりから無理のない範囲でお酒を楽しむ傾向が年々強まりつつあり、あらゆるアルコール飲料の平均度数は下がる一方である。

日本も若年層で似た傾向がみえる。新型コロナの特殊状況になる直前、19年の厚生労働省「国民健康・栄養調査」によると「20歳代の飲酒習慣がある人(週に3日以上、一日1合以上を飲酒する人)は7.8%で、バブル末期1989年の16.9%から大きく減少している」。

現在の若者世代が年を重ねれば「のんべえ」側が希少になることは容易に想像できる。魚を売る側としては今のうちに対応しないと取り残される。

▼柑橘系との相性よし

20歳になった当初から体質的にお

酒が合わない(飲んでも楽しくならない)と感じていた小石川社長は、同じような感覚を持っていた仲間たちと、ノンアル飲料で楽しめる料理や店の開拓を進めてきた。

「ノンアル飲料は柑橘系と相性がいい。最近では『みかんの皮を混ぜた餌で育てたみかんブリ』は当たりだった」と話す。マグロのトロのような脂身の多い魚には「ほうじ茶や緑茶系のノンアルカクテルがお勧め」だという。

この2年でノンアル飲料の種類は多くの店で増えたが、基本的には「欧米の流行に敏感な、洋風の店の方がわれわれにとっては親しみやすい」。

逆にハードルが高いと感じる代表格が寿司屋だという。「日本酒推しの店が多く、ノンアルはお茶だけの店がほとんど。お寿司は大好きなのだが入店しづらい。酒飲み以外はお断りのイメージを一刻も早く変えたい。」と述べた。

「まぐろ!? ぬりえ」完成!

一般社団法人大日本水産会(以下「大水」)は「まぐろ!? ぬりえ」を完成し、全国の小学校に見本の冊子を配布した。

これまで「おさかなぬりえ」、「くじらぬりえ」、「サメぬりえ」を作成し、今回は、美味しいマグロに出会い食べるため、マグロの種類や漁業のこと、食卓に運ばれてくるまでの市場

の様子などに興味を持ってもらい、ぬりえをすることでより深く理解できる構成となっている。

低年齢層向けのぬりえではあるが、大人も一緒に楽しめ、思わず「今夜はマグロにするか!」と考えてもらえる内容を目指したとのこと。

ページをめくると、躍動感あふれるマグロのイラストが目飛び込み、漁業の実態もさりげなく盛り込み、市場の様子を俯瞰して描き、最

後は上手に食べれば魚の資源は減らないことを訴えて締めくくった。

ぬりえの利用については、学校や個人が大水のホームページからダウンロードして利用することとしている。ぬりえや各種資料のダウンロードは「大日本水産会」(suisankai.or.jp)のトップページのバナー「魚食普及推進センター」の「教材配布・ダウンロード」のページから無料でおこなえる。

編集後記

トヨタ自動車の「カイゼン」は世界的に有名で英語の単語にもなっており、私の使っている辞書には「生産方法や機械設備から一切のむだを省くための絶えざる向上を説く日本のビジネス哲学やその組織的実践活動」と書かれています。仕事でも私生活でも少しずつ「カイゼン」を図っていきたいものです。

(太田)